



感染症に気をつけよう



1. 全数報告感染症(感染症法1～5類感染症):12月の報告

海外での感染が推測されるものとして、デング熱 1 件(インドネシア)およびチクングニア熱 1 件(インド)の報告がありました。海外では衛生事情が日本と異なることも多く、感染症のリスクは高くなります。下記ホームページをご参照ください。

- ・FORTH 海外で健康に過ごすために(厚生労働省検疫所ホームページ) <http://www.forth.go.jp/>
- ・感染症 これだけ知っていれば怖くない!(日本旅行業協会ホームページ) <http://tabitokenko.visitors.jp/>
- その他、アメーバ赤痢 2 件、レジオネラ症・バンコマイシン耐性腸球菌感染症および後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)各 1 件の報告がありました。

定点報告感染症(感染症法における5類感染症)

平成 23 年 11 月 21 日～平成 23 年 12 月 18 日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>インフルエンザ</u>		全国的には流行期に入りましたが、市内ではまだ発生は少数です。しかし、今後の増加が予想されます。
<u>感染性胃腸炎</u>		12 月に入り、患者数は先月よりも大幅に増加しました。市全体の数字としては平年並みですが、いくつかの区では警報レベルの患者数となっています。
<u>水痘</u> (水ぼうそう)		11 月半ばから患者数の増加が見られています。市全体では注意報レベル以下の状態ですが、過去 5 年間の患者数比較では、最も多い数値となっています。
<u>A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>		12 月以降、徐々に患者数が増加しています。市全体では注意報レベル以下の状態ですが、警報レベルとなっている区もあるため、今後の動向に注意が必要です。

増加
 やや増加
 横ばい
 やや減少
 減少
 大流行
 流行
 やや流行
 散発
 × 市内発生なし

2. 今気をつけたい感染症

感染性胃腸炎: 主に冬に流行する感染症で、原因としてはノロウイルスやロタウイルスがあります。いずれも感染力は非常に強く、10～100 個程度という少数のウイルスでも、口から体内に入れば感染するといわれています。消毒に有効なのは次亜塩素酸ですが、人体には刺激が強く使用できないため、予防には手洗いが重要です。ノロウイルスはヒト-ヒト感染だけでなく、食べ物を介して感染を起こすことも多いので、食べ物を扱う場合は特に手洗いをしっかりとする必要があります。

- ・パンフレット [ノロウイルスによる感染性胃腸炎にご注意ください!](#)
- ・パンフレット [正しい手洗い\(日本語版\)](#)

「感染症に気をつけよう1月号」は、平成 23 年 12 月 22 日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、[委員会報告](#)をご覧ください。

市内感染症に関する詳しい情報は、[感染症発生状況](#)をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用の[パンフレット](#)の作成もしていますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

